資料４－１

菊川市の人口分析

① 人口推移

国勢調査における人口推移（図 1）をみると、2000 年から 2015 年にかけて減少傾向でしたが、2020 年に増加し 47,789 人となりました。また、2020 年の人口は 2000 年以降最も多くなっています。

一方、住民基本台帳における人口推移（図 2）をみると、2019 年の 48,474 人をピークに減少傾向にあり、2023 年には 47,450 人となっています。

国勢調査における人口推移（図 1）を年齢 3 区分別にみると、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）は 2000 年以降減少傾向にありますが、老年人口は増加傾向にあります。

2020 年における年少人口（0～14 歳）は、2000 年から約 1 割減少し、6,711 人となっています。生産年齢人口（15～64 歳）は、2000 年から約 1 割減少し、27,785 人です。老年人口（65 歳以上）は 2000 年から約 1.5 倍に増加し、12,864 人（27.2%）となっています。

住民基本台帳における人口推移（図 2）を年齢３区分別にみると、国勢調査と同様の傾向となっており、老年人口（65 歳以上）は増加傾向にあり、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）は減少傾向が続いています。

菊川市の類似団体として、総務省類似団体区分都市 I-0 のうち近隣都市や菊川市と同様に中部地方の高速道路または電車が通行している「静岡県牧之原市」、「愛知県新城市」、「長野県中野市」と人口増減の傾向を比較したところ（表 1）、「新城市」よりは増加していないものの、静岡県及び牧之原市よりも人口規模を維持していることが分かります。

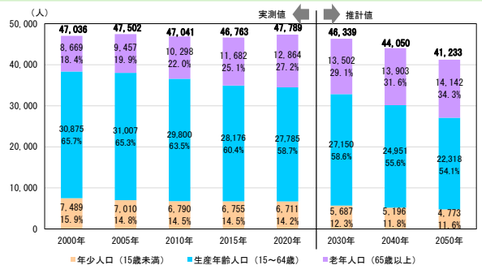


図１：年齢３区分人口推移
（国勢調査、日本の地域別将来推計人口）

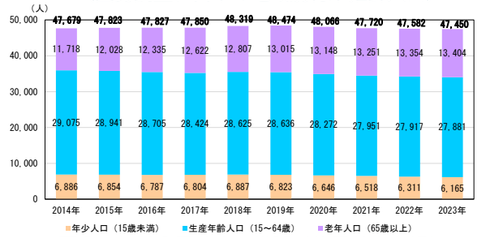


図２：年齢３区分人口推移（住民基本台帳）

表１：2000 年を 100 とした人口増減
（国勢調査）（2000 年→2020 年）

	静岡県	菊川市	牧之原市	新城市	中野市
増減率	-3.56%	1.60%	-15.81%	23.13%	-0.67%

② 人口ピラミッド【2010・2020・2030・2040】

2010･2020 年の人口ピラミッドの形状は２つの大きな膨らみられる「ひょうたん型」に近いものとなっており、日本全体の人口ピラミッドの形状とほぼ同様となっています。

その膨らみは「第１次ベビーブーム」と「第２次ベビーブーム」の世代といえます。

人口ピラミッドは、2010 年から 2040 年にかけて、年齢別人口ボリュームをみると、年少人口（0～14 歳）及び生産年齢人口（15～64 歳）は小さくなっていますが、老年人口（65 歳以上）は大きくなっています。

2040 年には男女ともに 60 代の人口が最も多くなると推測されています。

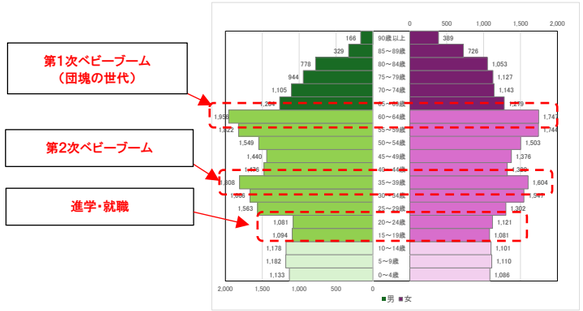


図３：2010 年（国勢調査）

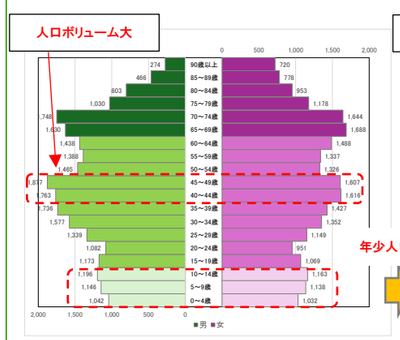


図４：2020 年
（国勢調査）

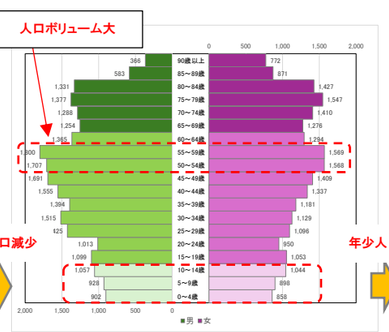


図５：2030 年
（日本の地域別将来推計人口）

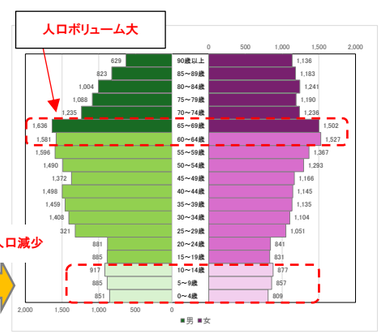


図６：2040 年
（日本の地域別将来推計人口）

③ 外国人の居住実態

菊川市において、総人口のうち外国人人口は約 8%となっており、なかでも生産年齢人口（15～64 歳）では 10%ほど市内に居住しています。（図７）

2018 年から 2022 年を比較すると、外国人人口は増加していますが、日本人人口は減少しています。

外国人の出身地は、ブラジルが最も多く、次いでフィリピン、ベトナムの順となっています。

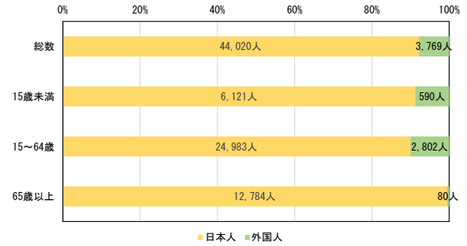


図７：外国人人口と比率（2020 年）（国勢調査）

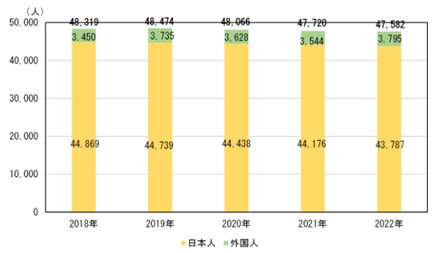


図８：外国人人口と比率（住民基本台帳）

表２：外国籍の人々の出身地（住民基本台帳）

単位：人	総数	ブラジル	フィリピン	中国	ペルー	ベトナム	その他	無国籍
2018 年	3,450	2,020	778	203	66	172	211	0
2019 年	3,735	2,221	800	207	69	244	194	0
2020 年	3,628	2,103	786	200	69	289	181	0
2021 年	3,544	2,043	831	162	62	261	185	0
2022 年	3,795	2,059	924	164	64	299	285	0

④ 人口動態

人口動態は、2014 年から 2019 年まで社会的人口増減の増加が自然的人口増減の減少よりも上回っており人口が増加していましたが、2020 年から 2021 年は自然的人口増減と社会的人口増減がともに減少していることから人口が減少しています。

2022 年においては、社会的人口増減は増加していますが、自然的人口増減の減少が社会的人口増減の増加を上回っており 123 人減となっています。

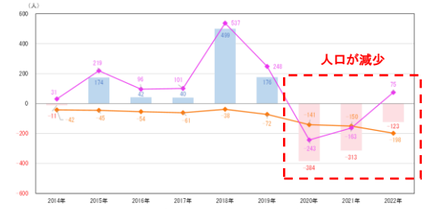


図９：人口動態（住民基本台帳）

⑤ 人口動態につながる要素　－ 自然増減・特殊出生率・未婚率 －

自然的人口増減は 2014 年以降、死亡数は増加傾向にある一方、出生数は減少傾向にあり、2014 年以降は出生数が死亡数を上回ることはなく、自然減少が続いています。特に、2020 年以降は自然減少 100 人を超え、2024 年には自然減少 250 人となっています。（図 10）

菊川市の合計特殊出生率は 2018 年～2022 年調査において 1.58 となっており、2013～2017 年調査から減少しています。また、2022 年における全国及び静岡県の合計特殊出生率は全国 1.26、静岡県 1.33 となっており、菊川市の方が高い水準となっています。（表３）

婚姻数は、年々減少しており、2022 年において 183 件となっています。

このような傾向は、全国及び静岡県と概ね同様の傾向となっています。（図 11）

表３：合計特殊出生率の推移（人口動態統計調査）

区分	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
菊川市			1.66					1.67				1.58			
静岡県	1.44	1.43	1.54	1.49	1.52	1.53	1.50	1.54	1.55	1.52	1.50	1.44	1.39	1.36	1.33
全国	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	1.26

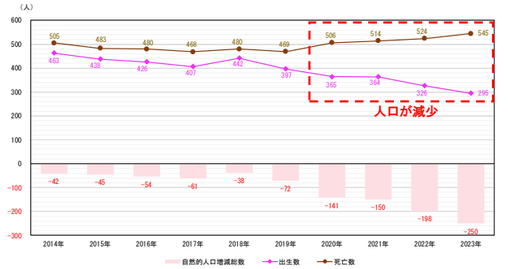


図 10：自然増減の推移（住民基本台帳）

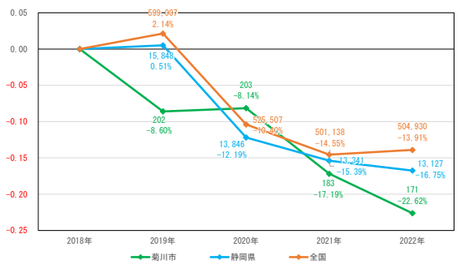


図 11：婚姻数における 2018 年からの増減率の推移（人口動態統計調査）

⑥ 総人口に与える自然動態・社会動態の影響

菊川市の自然動態と社会動態を重ね合わせてみると、1994 年から 1996 年までは、自然増・社会増であり、特に自然増の影響が大きくなっていました。

しかし、1997 年に社会減に転じ人口減となります。

その後、2001 年から 2010 年にかけて社会減の影響を大きく受け、人口が減少傾向となります。

2011 年から 2018 年にかけて社会増の影響を受け、人口が増加傾向となります。

2020 年から 2021 年にかけて、社会減及び自然減となり、2022 年以降は社会増となりましたが、自然減の影響で人口減となります。

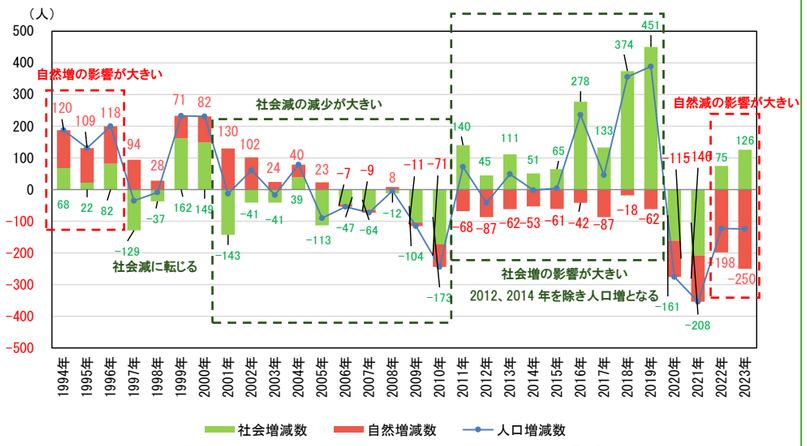


図 12：総人口に与える自然動態・社会動態の影響
（住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯に関する調査、RESAS）
※2012 年以降は外国人を含む

⑦ 年齢階級別純移動数の推移

年齢階級別にみた純移動数の時系列推移（図 13）をみると、2000 年→2005 年、2005 年→2010 年、2010 年→2015 年どの年代においても「15～19 歳→20～24 歳」で最も転出増となり、「20～24 歳→25～26 歳」で最も転入増となっています。

また、男女別の年齢階級別人口移動（図 14）をみると、男女ともに「20～24 歳→25～29 歳」で最も転入超過となっています。男性は「25～29 歳→30～34 歳」、女性は「10～14 歳→15～19 歳」で最も転出超過となっています。

住民基本台帳人口移動報告による調査（図 15）をみると、男性は 60 歳以上で最も転出超過となっており、20 代～40 代にかけて転入超過となっています。

女性は、10 代未満及び 30 代を除き転出超過となっています。特に 20 代で最も転出超過となっています。（図 15）

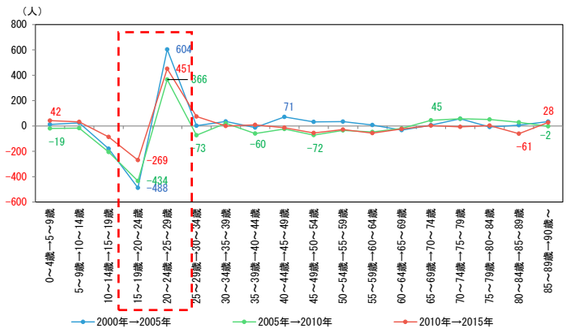


図 13：年齢階級別純移動数の時系列推移
（国勢調査、RESAS）

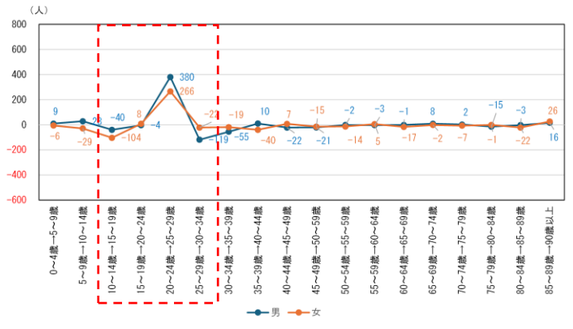
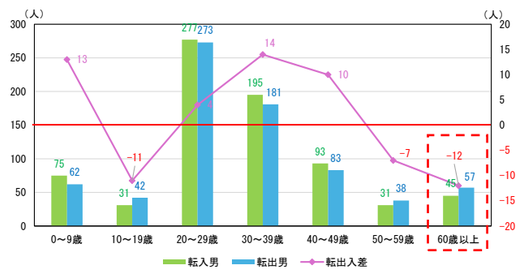


図 14：年齢階級別人口移動（2015 年→2020 年）
（国勢調査）



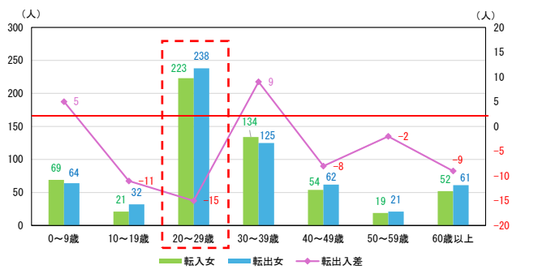


図 15：年齢階級別転出転入状況（左：男性/右：女性）
（住民基本台帳人口移動報告 参考表　2012 年～2017 年（年齢（10 歳階級），男女，転入・転出市区町村別結果））

⑧ 転入・転出先及びその内訳

2005 年から 2015 年にかけて人口が減少傾向にありましたが、2015 年から 2019 年にかけて転入が急増したことにより、総人口が増加に転じています。（図 16）

また、人口推計では、2020 年をピークに減少傾向が続く見通しとなっています。

2022 年における菊川市への主な転入先は、「掛川市」が最も多く、次いで「御前崎市」、「牧之原市」の順に多いです。（図 17）

一方で、主な転出先も「掛川市」が最も多く、次いで「御前崎市」、「磐田市」の順に多くなっています。

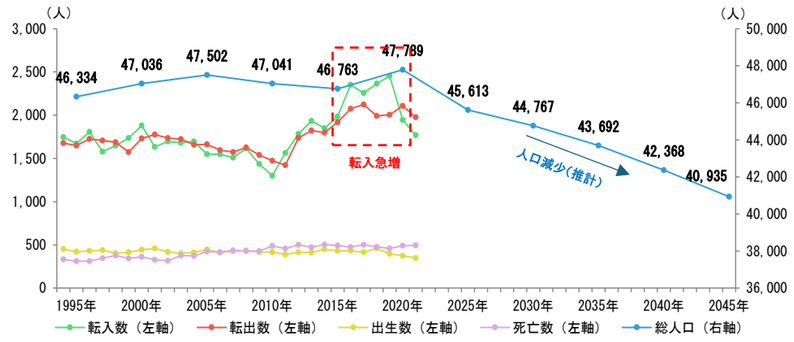


図 16：出生数・死亡数 / 転入数・転出数
（国勢調査、日本の地域別将来推計人口、住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査）

順位	市区町村名	人数（割合）	グラフ
1 位	掛川市	253 人（14.1%）	
2 位	御前崎市	119 人（6.7%）	
3 位	牧之原市	93 人（5.2%）	
4 位	袋井市	66 人（3.7%）	
5 位	磐田市	58 人（3.2%）	
6 位	島田市	54 人（3.0%）	
7 位	浜松市中区	45 人（2.5%）	
8 位	静岡市葵区	42 人（2.3%）	
9 位	焼津市	41 人（2.3%）	
10 位	藤枝市	38 人（2.1%）	
	その他	980 人（54.8%）	

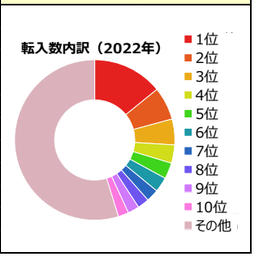


図 17：菊川市の転入数内訳（2022 年）
（住民基本台帳人口移動報告）

順位	市区町村名	人数（割合）	グラフ
1 位	掛川市	326 人（18.6%）	
2 位	御前崎市	75 人（4.3%）	
3 位	磐田市	70 人（4.0%）	
4 位	袋井市	65 人（3.7%）	
5 位	島田市	64 人（3.6%）	
6 位	牧之原市	58 人（3.3%）	
7 位	浜松市中区	49 人（2.8%）	
8 位	静岡市駿河区	33 人（1.9%）	
9 位	浜松市南区	32 人（1.8%）	
10 位	浜松市東区	32 人（1.8%）	
	その他	950 人（54.2%）	

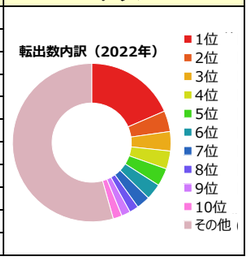


図 18：菊川市の転出数内訳（2022 年）
（住民基本台帳人口移動報告）

⑨ 昼夜間人口と比率

昼夜間人口は、2000 年から 2020 年において、約 95%前後を推移しています。（図 20）同調査期間において、継続して昼間人口が夜間人口を上回ることはありませんでした。

主な流出先として、「掛川市」が最も多く、次いで「牧之原市」、「御前崎市」の順に多くなっています。（図 21）

一方、流入者の居住地は「掛川市」が最も多く、次いで「御前崎市」、「島田市」の順に多くなっています。（図 22）

また、最も流出超過している地域は「掛川市」、最も流入超過している地域は「島田市」となっています。

図 19：静岡県内の市町位置図
（静岡県 HP）

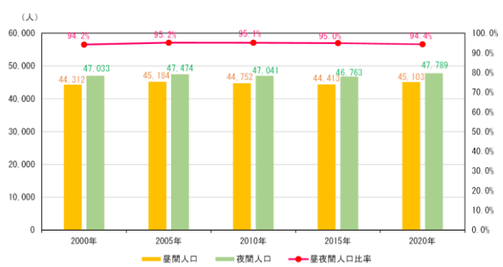


図 20：昼夜間人口と比率の推移（国勢調査）

順位	市区町村名	人数（割合）
1 位	掛川市	4,429 人（42.4%）
2 位	御前崎市	1,419 人（13.6%）
3 位	島田市	1,044 人（10.0%）
4 位	牧之原市	947 人（9.1%）
5 位	袋井市	579 人（5.5%）
6 位	藤枝市	408 人（3.9%）
7 位	静岡市	369 人（3.5%）
8 位	磐田市	308 人（3.0%）
9 位	浜松市	306 人（2.9%）
10 位	焼津市	217 人（2.1%）
	その他	409 人（3.9%）

図 21：菊川市の流入者の上位地域
（2020 年）（国勢調査、RESAS）

順位	市区町村名	人数（割合）
1 位	掛川市	5,673 人（43.1%）
2 位	牧之原市	1,852 人（14.1%）
3 位	御前崎市	1,479 人（11.2%）
4 位	袋井市	867 人（6.6%）
5 位	浜松市	710 人（5.4%）
6 位	静岡市	621 人（4.7%）
7 位	島田市	568 人（4.3%）
8 位	磐田市	507 人（3.9%）
9 位	藤枝市	236 人（1.8%）
10 位	吉田町	126 人（1.0%）
	その他	518 人（3.9%）

図 22：菊川市の流出者の上位地域
（2020 年）（国勢調査、RESAS）

	順位	市区町村名	人数
流出超過	1 位	掛川市	1,244 人
	2 位	牧之原市	905 人
	3 位	浜松市	404 人
	4 位	袋井市	288 人
	5 位	静岡市	252 人
	順位	市区町村名	人数
流入超過	1 位	島田市	476 人
	2 位	藤枝市	172 人
	3 位	焼津市	96 人
	4 位	吉田町	36 人
	5 位	神奈川県藤沢市	8 人

図 23：流出入超過の上位地域
（2020 年）（国勢調査）

⑩ 人口推計

菊川市における総人口における 2020 年からの人口増減率をみると 2030 年には-3.03%（46,339 人）減少し、2040 年には-7.82%（44,050 人）、2050 年には-13.72%（41,233 人）と減少傾向が続きますが、静岡県や全国に比べて減少傾向は緩やかになっています。

男女別にみると、男性に比べ女性の方が減少率が高く、2050 年において男性は-12.05%減少に対して、女性は-15.02%減少となっています。このような傾向は、静岡県や全国と同様の傾向となっております。

若者女性（20-39 歳）をみると女性よりも減少率が高く、2030 年で-10.72%減少、2040 年では-15.38 減少、2050 年には-26.48%減少します。また、静岡県や全国と比較すると 2030 年においては静岡県や全国よりも減少率が高く、2040 年・2050 年では全国よりも減少率が高くなっています。

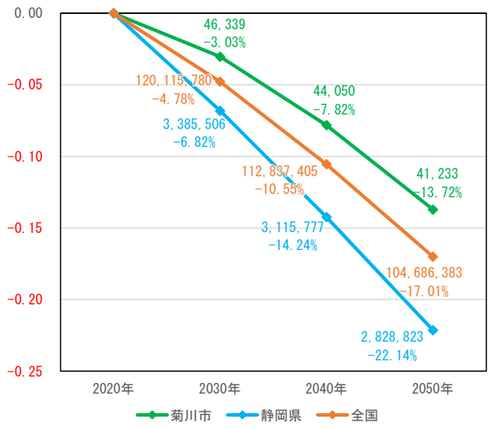


図 24：総人口における 2020 年からの人口増減率の推移　菊川市/静岡県/全国（日本の将来推計人口）

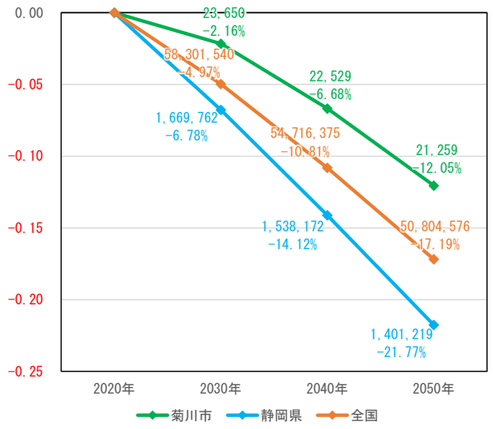


図 25：男性人口における 2020 年からの人口増減率の推移　菊川市/静岡県/全国（日本の将来推計人口）

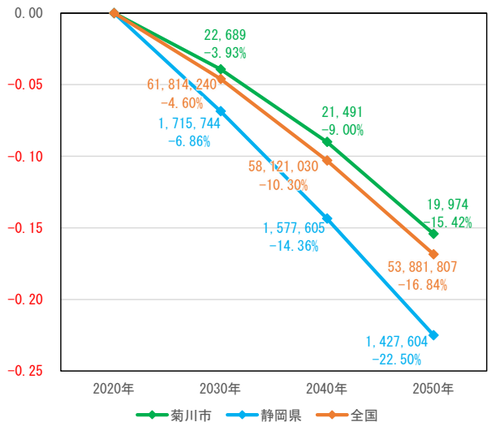


図 26：女性人口における 2020 年からの人口増減率の推移　菊川市/静岡県/全国（日本の将来推計人口）

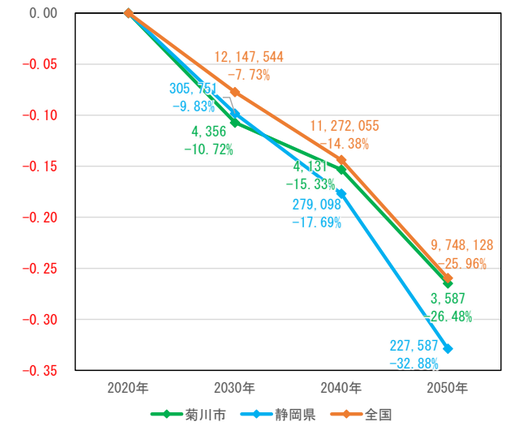


図 27：若者女性（20-39 歳）人口における 2020 年からの人口増減率の推移　菊川市/静岡県/全国（日本の将来推計人口）